

タウンミーティング あったかいまち「ふじみ野」を目指して

日時 平成26年9月21日（日）午後6時～7時30分

会場 赤土原分館（亀久保669）

天気 晴れ

参加者 59人



主な意見等

参加者 最近、1時間あたり100ミリという報道が連続して見られるように集中豪雨による被害が多発しているが、ふじみ野市としては、1時間あたりの雨水量はどの程度まで耐えることができるのですか。また、早めの避難勧告も重要ではありませんか。

市長 1時間あたり55ミリを基準にしています。ゲリラ豪雨が来ると、東京都心でも、水をはけきれずに冠水しているようです。ふじみ野市内でもそういう箇所があります。いままでは、1時間に80ミリから90ミリという雨水量は想定外でしたが、いまは現実に頻発しています。市内の管をなんとかして対応させるというのは現実としては難しいので、雨水の貯留浸透槽を埋設したりして対策を講じているところです。また、避難勧告は、埼玉県の市長会でもよく議論されているところです。土砂降りの中を避難させるのが正しいのか、2階建ての家ならば2階に逃げた方がいい場合もあるのではないかと、など勧告等を出す際には、慎重に行う必要があると考えております。市内で床上浸水が起こる可能性としては低いですが、何が起こるか分からないのが災害でもありますので、適切に対処したいと考えております。

参加者 亀久保4丁目の川越街道旧道に面した場所に、民間保育園の建設工事が始まろうとしていますが、ここは道路が混雑する場所です。朝晩の通勤時間は、旧大井給食センターから川越街道へ出る車や川越街道旧道を上り左折して川越街道に出る車で混雑しています。ここに民間保育園ができるということは、送迎の車も増えるこ

とになると思います。場所として相応しいのか疑問に感じていますので、ご意見を聞かせてください。

市長 行政としては、市内に民間保育園を作っていただきたいというのが本音です。用地の確保について、行政としては、立地上の課題を解決する方策を見出しながら、よほどのことがない限りは、民間保育園に運営してもらいたいと考えています。交通量や道路の形状、朝晩の車の流れが多い点などについても、課題解決に向けて取り組む必要があると考えています。

参加者 代替園は、亀居保育所が耐震診断上問題があるとの理由から継続が難しいため、その代替園として作られると聞いています。旧大井給食センター前にある道路は、車同士がすれ違えずにらみ合いになりがちです。雨の日に送迎する父母も危険を感じながらの送迎になります。民間保育園が、自らそこに建てるのはいいと思いますが、本当に命が大事なら、代替園である民間保育園を交通量の多いあの場所に、建てるのはいかがなものでしょうか。

市長 新たにできる民間保育園は、代替園として作るのではなく、待機児童対策として来年4月に民間保育園3園作るものです。耐震診断を行うべき国の基準は、床面積500㎡以上2階建ての建物です。しかし、それに満たない建物に対しては、耐震診断をしなくていいのでしょうか。診断さえしない自治体もありますが、ふじみ野市では、基準に満たないから耐震診断をしないで放置するということはせず、430㎡の保育所でも実施しました。その結果として、耐震性が足りないところもありました。耐震診断そのものに対する議論もあるとは思いますが、耐震性に疑問を持たれた場合、市としてはなんらかの対策を講じなければなりません。今回、亀居保育所と西保育所が話に出ていますが、その2園は、建築後40年以上が経過しているため、耐震補強工事をした場合は、新築するのと同じ程度の費用がかかると言われています。市は、保育所を新たに設置するより、保育に欠けるご家庭に対して保育の支援をしていくことのほうが重要性が高いと考えています。国の法律が、官から民へという流れの中で、公立保育所には建設費に対して補助金が出ないどころか、運営費に対しても補助金が出ない中、限られた財源で一人でも多くの方に保育サービスを提供するためには、公立保育所を新たに作るという選択肢はないと考えています。来年4月に開園する民間保育園で283名の定員増を図ろうとしましたが、耐震強度が不足する子どもたちに移動してもらい、他園を希望する場合に空きがあるようであれば、優先的に移動させてあげたいと考えています。私自身の子ども2人も霞ヶ丘保育園でお世話になりました。上福岡駅西口にあるので登園時は、自転

車の前後に子どもを乗せて、いまのように拡幅されていない踏切を渡り、さらにりそな銀行前の県道を渡っていました。少しでも安全な経路で登園させてあげたいところですが、民間保育園の開園にあたり、立地的なことに関しましては市としても課題解決を図る必要があると考えています。

保育園の話が出てきたので、もう1点お話しさせてもらいたいのは、決してお金だけのために市の方針を決定しているわけではないということです。耐震の強度不足が指摘されている以上、例えば、亀居保育所周辺の想定最大震度が震度5弱だったとします。しかし、東日本大震災に代表されるよう、想定外という言葉が何度も使われているように、震度6や震度7になったときは誰が責任を取れるのでしょうか。本市の辛い経験として、平成18年にプール事故を経験しているので、通常の自治体以上に、安心・安全には力を入れなければなりません。そういったことを勘案した上で、市としての方針を決定させていただきました。子どもたちが慣れ親しんだ環境から移らなければならないことに対する辛さは十分承知しています。しかし、小学校の学区の見直しのときなど、節目の年に環境の変化を与えてしまうのは辛いですが、限られた財源で1人でも多くの子どもたちに保育サービスを提供するため、民間のノウハウを活用するという結論に至りました。

参加者 冒頭に行われた市長からの説明は、あったかいまちづくりを目指して様々な展開を行っていることがよく分かりました。小学校の耐震補強と大規模工事、大井総合支所の新築、いまは市役所本庁舎の耐震化と増築工事をやっており、消防署も大井総合支所のとなりに移ってくるなど、すごくいいと私も思っています。しかし、保育所のことを忘れていたのでは、とも感じています。議会も傍聴させていただきましたので、市民の皆さんの税金だから、広く市民のために使うという考え方は分かります。今ある保育所のうち耐震性が足りず、危ない、責任は誰が取るのかとなると市長も苦しいと思います。さらに親御さんは、登園する度に心配な気持ちになるかもしれません。そこで、最後の合併特例債を現存する公立保育所の建て替えに活用するのはいかがでしょうか。子どもが減っていない状況で公立保育所を2つなくすと、せっかく待機児童対策のために誘致した民間保育園に、待機児童が入れなくなってしまいます。亀久保保育所、鶴ヶ岡保育所も控えていると聞いています。国の方針もあるので、新しく公立保育所を建築して欲しいとは言いませんが、いまある公立保育所は存続してもらい、地域の身近なところで子どもたちが安心して通える保育園を合併特例債なども活用しながら、維持してもらいたいです。また、先ほど大井清掃センター跡地では、壊すだけでは合併特例債の対象とならないと聞きましたが、保育所もそういう形で建て替えて、市民からやっぱり住んで良かった、子育てするならふじみ野市と思えるようなまちづくりを進めてもらいたいです。

市長　　いまのご提案に対しまして分かりましたと言いたいところですが、市として公立保育園を作る予定はありません。新たに作るのではなく、いまある公立保育園を建て替えるのはいかがかとのご提案についてですが、本来であれば、公立保育園から民間保育園に変えて行かなくてはいけないというのが考え方です。公立保育所として作ると、運営も当然する必要があり、国の制度上、ふじみ野市が一人でも多くの保育ニーズに対応するためには、民間保育園を多く開園してもらうことが、限られた財源の中でできることです。合併前の話をするのは好きではありませんが、合併前の旧大井町では、民間保育園であるかすが保育園がありましたが、当時は公立保育所にも補助金が出たため、急いで、亀居・鶴ヶ岡・亀久保保育所が建築されました。その手法として、地権者に協力してもらい、地権者が建物も作り、地代だけでなく家賃として1園あたり年間約1000万円払ってきたところでした。このやり方については、旧大井町のときから疑問視する声も上がっていましたが、そのやり方は変えていくべきですし、市としても公立保育所はつくらないという方針の中では、民間保育園へ優先的に子どもたちを受けて入れてもらうものです。

参加者　　他自治体では、公立保育園から民間保育園への移動は、3～5年程度の時間をかけて行っています。なぜ市長は6ヶ月から9ヶ月という短期間で進めるのですか。命が最優先とおっしゃいますが、万が一を想定するならば、震度5強、6強の地震が起きることよりも、新しい民間保育園近くの交通事故の想定の方が高いと思います。また、4月以降に在園希望児がいた場合、保育継続の義務があると思いますが、どうお考えですか。

市長　　6月の発表で時間が少ないとのご指摘ですが、それまでの間、何とか使い続けることができないのか議論していましたが、最終的に、耐震補強工事を行い、活用することは不可能であることが判明したものです。また、保育を6歳まで許可しているとのご指摘ですが、緊急避難の場合は別であると認識しております。

参加者　　以前もお話しさせていただきましたが、防災無線にエコーがかかったように聞こえます。とても大事な放送なので、何とか改善できませんか。

また、弁天の森にある遊歩道がきれいに修理していただき、ありがとうございます。皆さん喜んでおりますのでお伝えいたします。

市長　　以前のご指摘、記憶しております。中々進まなくて申し訳ありませんが、難聴地域については、調査を行っている段階です。よろしく申し上げます。

参加者 亀久保公園近くに住んでいますが、朝早くからバスケットボールの音がすごくします。いまの技術なら、音のしないマットなどもあると思います。5年以上前から市に対して伝えていますが、対応いただけていません。また、長い塀が作られましたが、そこからボールが飛び出すのを見たこともありません。自転車による乗り入れも多いので、見回りすることも必要ではないでしょうか。

市長 ご意見として承ります。明日早速確認したいと思います。

参加者 大井総合支所で用が済まないときは本庁舎まで行く必要がありますが、途中にある開かずの踏み切りをなんとか立体化などにすることはできませんか。高齢化が進むとさらに大変になってしまいます。

市長 旧上福岡市のとき、立体化の話もありましたが中々進まず、地下道を通す話もあり国の事業認可も下りましたが、今後数十年を見据えた議論をした結果、立ち消えになった経緯があります。いまから立体化や地下道を作るのは、財政的にも大変難しいものがあります。東武鉄道に対して要望活動も行っていますが、こちらも厳しい状況です。また、市役所への来る方法論よりも出かけることのできない方への働きかけをどうするのかという点も大きな課題であると感じております。

参加者 旧大井給食センター前からふじみ野駅に向かう道路については、大井小学校への通学路にもなっていますが、道幅が狭く、交通量も多いので常に危険と隣り合わせです。下校時、私たちは毎日見守り活動を行っていますが、事故が起きないのが不思議なくらいです。整備の経過報告があればお願いしたいです。

市長 あの場所は、さまざまな方から道路拡幅や道路整備のご意見をいただいています。道路に面した方々に意向調査をしたところ、我々がなんとかしたいというのと異なる声が出ています。都市計画道路として、強制的に用地確保するわけにもいきませんので、まずできることとして旧大井給食センター周辺を拡幅したいと思っています。みなさんそれぞれ考えをお持ちで、まとまった意見には集約されていません。それを踏まえて、市としてどこからどこまで進められるか検討したいと思います。なお、今年度は、測量を暫定的に実施しています。

参加者　市長は、公約で皆さんの声に耳を傾けます、とおっしゃいますので、議会のインターネットによる情報公開をぜひとも実現してもらいたいです。その体制はできており、200万円もかからずに実施できるとも聞いています。他市でも導入しているところが多いです。本当に市民の声を聞くというのであれば、市政の状況を分かるようにする必要があるのではないでしょうか。特に、本庁舎までいくのが大変な地域に住んでいる方のために、私たちの生活に直結している市議会を大井総合支所や大井中央公民館で見られるようにしてもらいたいです。

市長　ありがとうございます。大変うれしいご意見であり、私も同感です。「準備できている」とのご発言は、議場から公共施設のロビーやイトーヨーカドーへ映像を飛ばすということだと思いますが、それは準備できています。映像を流せるネットワークとしては、大井総合支所から大井中央公民館への回線が繋がっていませんが、本庁舎と大井総合支所は開通していますので、対応できると思います。しかし、議会運営に関することなので、市議会として決定いただく必要があります。ただ、議会としての議論としては、傍聴するために中継を見ていただく分には問題ありませんが、住民票を取りに来た市民の方が通りすがりに見た場合、話の前後関係が分からず、その見た部分が全てであると認識することで誤解される恐れがあるという懸念があるようです。